

編集後記

2015年度から原田・佐藤の所属が社会学部教育文化学科から免許資格課程センターへと移った。本号は新体制で最初の『同志社大学図書館学年報』となる。巻頭言では新たな所属である免許資格課程センターの所長である井上智義先生からお言葉をいただいた。ご寄稿いただいたことはもちろん、井上先生には新体制初年度において、様々な面で大変お世話になっている。また、2015年度中には事務のご担当も西原様から出口様に交代され、本誌の編集作業をはじめとする司書課程の業務に加え、今年度からは原田・佐藤の研究関連の業務等もご担当いただいている。引き続き印刷をお願いしている木村桂文社様、協力いただいた学生諸君にもあわせて、ここで感謝を述べたい。

今号では日本図書館協会図書館の自由委員会の後援で実現したポール・スタージェス氏の講演会記録、本学司書課程をご担当であった宇治郷毅先生によるご寄稿を掲載することができた。ご講演いただいたスタージェス氏、お忙しい中で翻訳をご担当いただいた井上先生、原稿をお寄せいただいた宇治郷先生に心より感謝申し上げます。

同志社大学図書館情報学研究会 (DUALIS) の活動は軌道に乗り、発足当時のメンバーが卒業した後も精力的に活動している。今年度は林直樹さんにその活動記録を執筆いただいた。また、かつて DUALIS メンバーであり、現在は学校図書館・公共図書館で正規職員としてお勤めの谷口さん、西口さん、吉井さん、林さんから「私の仕事 この一年」のご寄稿をいただいた。DUALIS の皆さんの活躍の様子をうかがえることは本当に嬉しい。今年度は新たに佐藤悠さん、水内勇太さんと二人の大学院生がそれぞれ公共図書館、大学図書館に正規職員として働き出されることが決まっている。また、過年度の卒業生からも正規職員として公共図書館に採用が決定したというお知らせが複数届いている。OBOG 各位の今後のご活躍にも期待したい。

例年、東京・関東地区を対象に実施している図書館見学であるが、2015年度は九州北部、佐賀県・長崎県の図書館を訪問した。遠方へ赴くこととなったが、例年と変わらず多くの学生諸君に参加いただいた。得るものが多かったことは村上さん、木村さん、西村さんの見学記をお読みいただければおわかりと思う。寄稿いただいた3名はもちろん、参加いただいた皆さん、丁寧にご対応いただいた訪問先の皆さんに心より感謝申し上げます。

2015年度から開設された大学院図書館情報学コースでは、8名の1期生が精力的に学び、研究にも取り組んでいる。今号ではそのご活躍を紹介することはできなかったが、次号では図書館情報学コースの様子もご紹介できればと思う。

(佐藤翔)